別紙様式３

令和元年度　【　学園研究費助成金＜ B ＞　】研究成果報告書

学部名　生活科学部

ﾌﾘｶﾞﾅ　ﾄﾐﾀﾞ　ｶｽﾞｺ
氏　名　冨田　和子

研究期間　令和元年度

研究課題名　狂俳点者　凉川居其風を中心に名古屋狂俳壇の特色の獲得過程を探る

研究組織

	氏　　名	学　　部	職　　位
研究代表者	冨田　和子	生活科学部	助教
研究分担者			
研究分担者			

１．本研究開始の背景や目的等（200 字～300 字程度で記述）

明治期の名古屋で最初の狂俳雑誌と目される「狂俳 名吟新報」11 号（明治 12 年刊）に、「尾濃三判者概略」の記事があり、27 名の狂俳撰者が載る。当時、狂俳の人気が高く、愛知県・岐阜県に大勢の撰者がいたことが窺える。そこで、名古屋で「水の音」（明治 15 年創刊）を月刊で 35 年以上継続発行した水音社のメンバーに焦点をあてる。特に、凉川居其風（1833～1909）・米園通賀・貫々居一斎について調査する。また、名古屋草分けの新聞記者と評される大口六兵衞（1847～1906）は、大口高根の表徳号で『この花集』六篇序（明治 14 年刊）を寄せる。彼らの活動をとおして名古屋狂俳壇の特色の獲得過程を明らかにすることが目的である。

２．研究の推進方策（300 字程度で記述）

水音社のメンバーである凉川居其風・米園通賀・貫々居一斎について及び大口高根の関りを調査するために、狂俳及び水音社関係資料を収集し分析する。具体的な方法は、次のとおり。

1. 狂俳書及び水音社関係の資料を、個人や豊田市中央図書館・一宮市立中央図書館他で閲覧・借用したり、古書店で購入したりして収集し整理する。これらはできるだけ多くの人が活用できるように整理する。
2. 同時に、「水の音」に採録された句の中から特色を見出し分析する。
3. 新たに収集した資料を加え分析する。
4. 論文にまとめる。

３．研究成果の概要（600 字～800 字程度で記述）

名古屋の凉川居其風・米園通賀・貫々居一斎らによって明治 15（1882）年 5 月に創刊された水音社の月次集「狂俳 水の音」は、月刊で大正 5（1916）年頃まで 35 年以上継続発行された狂俳雑誌である。とはいえ、短歌や俳句とは違い、全国的に有名であるとはいいがたい地方の文芸雑誌である。しかし、その入句者の居住地は、名古屋だけでなく、一宮方面・豊明・土岐・東京など広範囲に及ぶ。

口頭発表「狂俳と方言―雑誌「水の音」を中心に―」（東海近世文学会　令和 2 年 12 月例会）では、その掲載句から料理に関する言葉や擬態語、副詞などを取り上げ、京都文化の影響や、似た意味を持つ副詞の使用範囲の違い、及び方言採取方法として有用な数例を報告した。

例えば、食品としての「錦木」は『日本国語大辞典』（小学館）他に「料理の名。材料や作り方は未詳」と載るが、京都では遅くとも文化 7（1810）年には食され、明治 18 年には東海地方でも認知され、粋人の間では昭和 6（1931）年でも食されたが、関東までは知られなかったと推測されることなどを報告した。

また、狂俳書及び水音社関係の資料の収集において、個人及び豊田市中央図書館・一宮市立中央図書館他で閲覧・借用・撮影をしたり、古書店で購入したりして、新たな資料の発掘ができた。いまだ埋もれた資料は多いと思われるので、今後も調査を継続したい。

いまだ不明な点については、今後の課題とするが、これら研究成果をもとに論文を作成中である。

４．キーワード（本研究のキーワードを１項目以上８項目以内で記載）

① 狂俳	② 水音社	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

５．研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

○公開した研究成果

学会発表

・冨田和子、狂俳と方言―雑誌「水の音」を中心に―、東海近世文学会、令和元年 12 月 14 日

○今後の展望

凉川居其風の生没年を明らかにし、明治 12 年以降の活動を報告した「狂俳点者　凉川居其風とその周辺」（東海近世文学会　平成 30 年 10 月 13 日）を踏まえ、これら研究成果をもとに、学会誌に投稿すべく論文を作成中である。